

船舶事故調査報告書

平成24年1月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）
委員 庄 司 邦 昭
委員 石 川 敏 行
委員 根 本 美 奈

事故種類	沈没
発生日時	平成23年8月16日 13時30分ごろ
発生場所	阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁 兵庫県西宮市所在の西宮内防波堤灯台から真方位014° 1,600m付近 (概位 北緯34° 43.0′ 東経135° 20.7′)
事故調査の経過	平成23年8月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	引船兼押船兼作業船兼交通船 第十二 ^{ながさき} 長崎丸、19トン 291-37348兵庫、海洋工業株式会社 17.50m×5.00m×1.90m、鋼 ディーゼル機関、735kW、平成9年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 52歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和56年12月1日 免許証交付日 平成19年12月17日 (平成25年3月24日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	主機、電気設備ほか諸機器が濡損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁に係留していた台船に左舷着けで係留し、船長が、平成23年8月11日に盆休みの帰省に備えて機関室ビルジほかの船体各部を点検して異状のないことを確認し、07時ごろ下船した。 本船は、無人で係留中、8月15日17時ごろ他船の乗組員が係留状態に異状がないところを目撃していたが、翌16日13時20分ごろ船体が大きく傾いているところを発見され、通報を受けた西宮海上保安署の巡視艇が急行し、13時30分ごろマスト部を海面上に出して沈没しているのを発見した。 本船は、翌17日に引き揚げられ、調査の結果、機関室船底に約10mm×約16mmの破口が確認され、応急修理後、修理地にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 ほとんどなし 海象：波 ほとんどなし
その他の事項	本船は、機関室ビルジ吸引管の真下に破口が生じており、破口部の機関室側には破口を中心とし、約140mm×約160mmの範囲がお椀状に浸食

	<p>されており、浸食部の船内側の表面は滑らかであった。 (付図1 破口部略図、写真1 破口 参照)</p> <p>本船は、破口部付近の船底外板は厚さ約12mmで破口部以外に腐食、浸食はなく、厚さの減少はなかった。</p> <p>本船は、船尾管シール装置がメカニカルシール式のものであり、平成19年7月に船長が乗船して以降、機関室ビルジが溜まることがほとんどなく、ビルジポンプでビルジを吸引することもほとんどなかった。</p>								
分析	<table border="1"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td> <p>本船は、阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁に無人で係留中、機関室ビルジ吸引管の真下の船底外板に破口が生じたことから、浸水して沈没したものと考えられる。</p> <p>船底外板の破口は、機関室船底外板の浸食が進行して生じたものと考えられるが、浸食が生じた要因及び発生時期を特定することはできなかった。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	なし	船体・機関等の関与	あり	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	<p>本船は、阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁に無人で係留中、機関室ビルジ吸引管の真下の船底外板に破口が生じたことから、浸水して沈没したものと考えられる。</p> <p>船底外板の破口は、機関室船底外板の浸食が進行して生じたものと考えられるが、浸食が生じた要因及び発生時期を特定することはできなかった。</p>
乗組員等の関与	なし								
船体・機関等の関与	あり								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	<p>本船は、阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁に無人で係留中、機関室ビルジ吸引管の真下の船底外板に破口が生じたことから、浸水して沈没したものと考えられる。</p> <p>船底外板の破口は、機関室船底外板の浸食が進行して生じたものと考えられるが、浸食が生じた要因及び発生時期を特定することはできなかった。</p>								
原因	<p>本事故は、本船が、阪神港尼崎西宮芦屋第2区の岸壁に無人で係留中、機関室ビルジ吸引管の真下の船底外板に破口が生じたため、浸水して沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>								

付図1 破口部略図

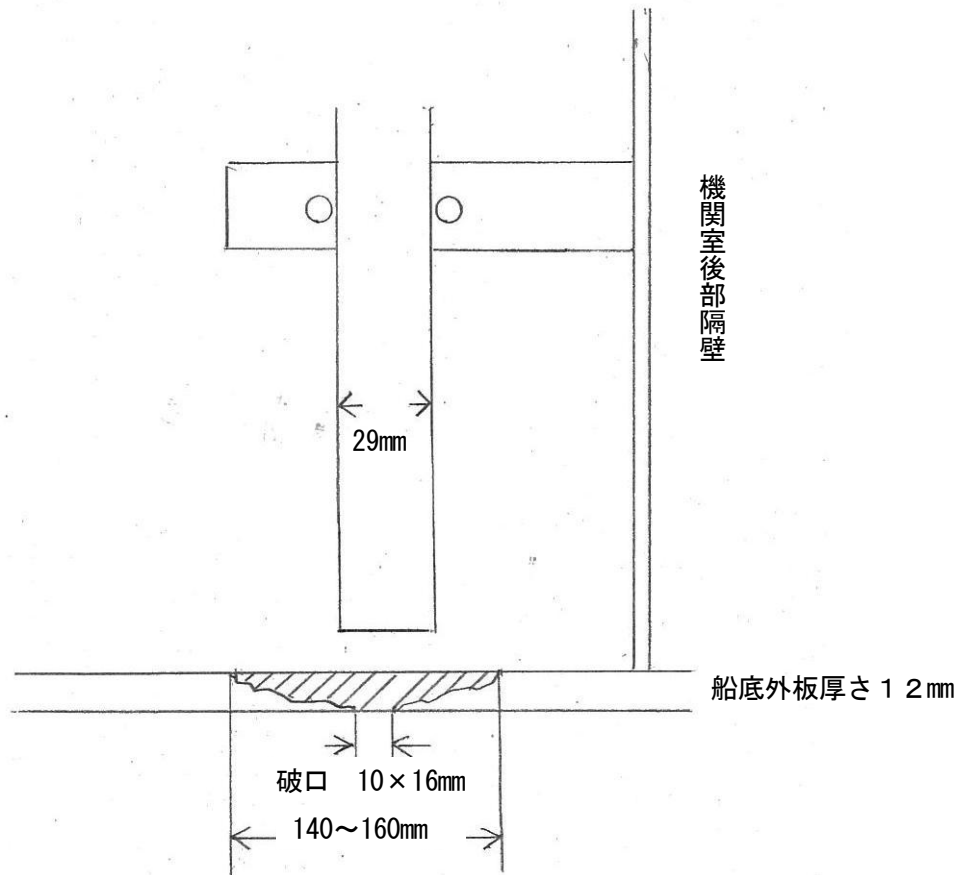


写真1 破口

